

定期作況報告

平成30年6月
(6月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

5月下旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比70%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比125%）。

6月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年並であった（平年比82%）。日照時間は平年並であった（平年比109%）。

6月中旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年より多かった（平年比148%）。日照時間は平年並であった（平年比95%）。

以上のことから、この1か月間（5月下旬～6月中旬）は、気温、降水量、日照時間はともに平年並であった。

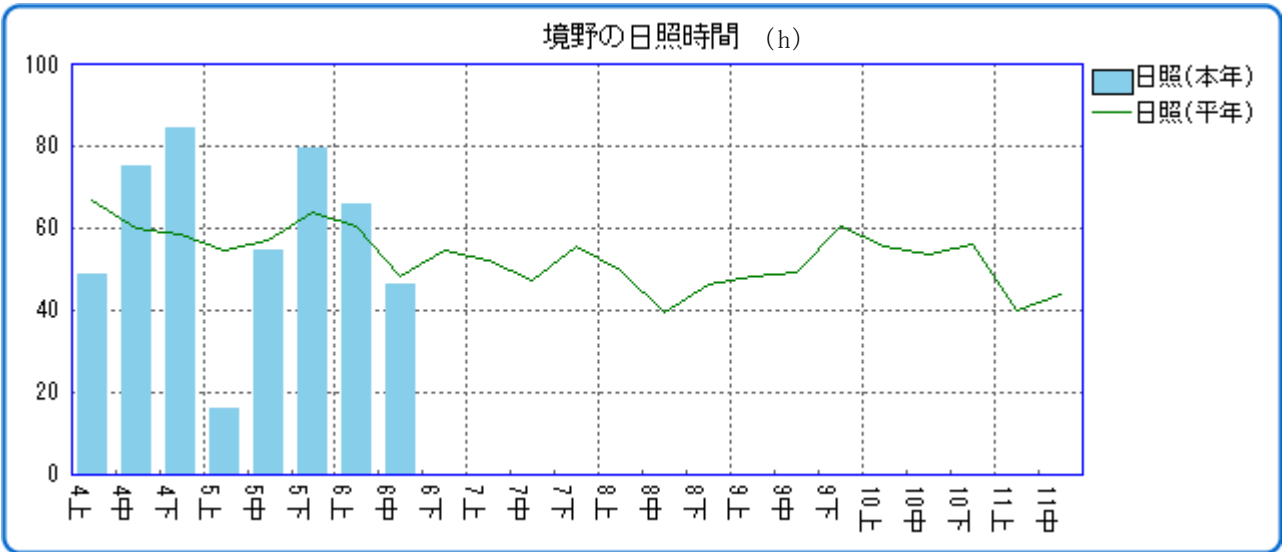
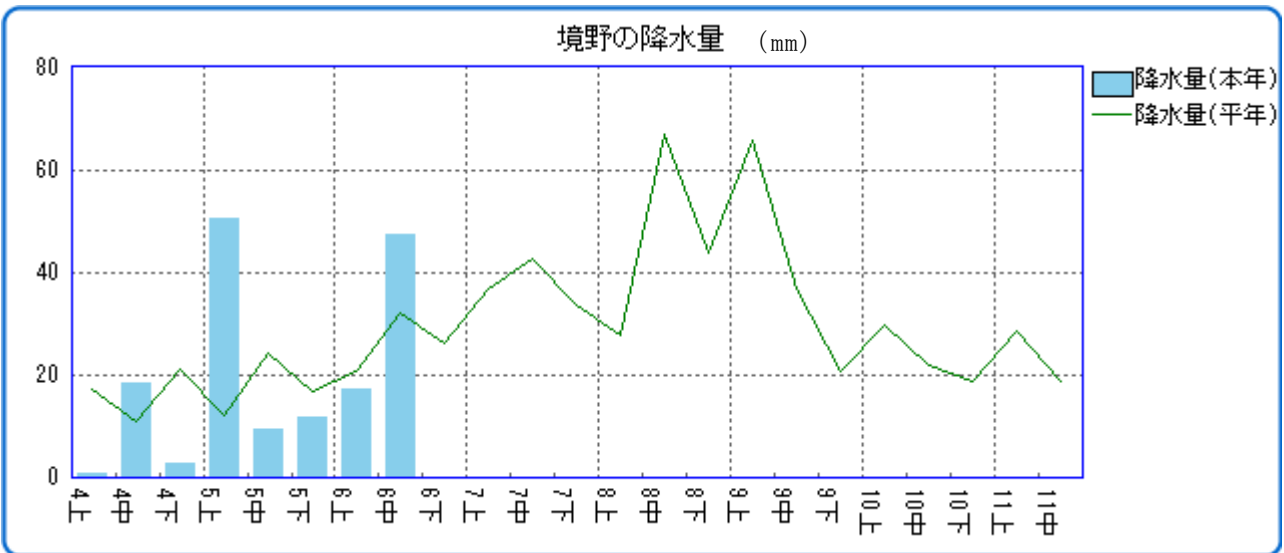
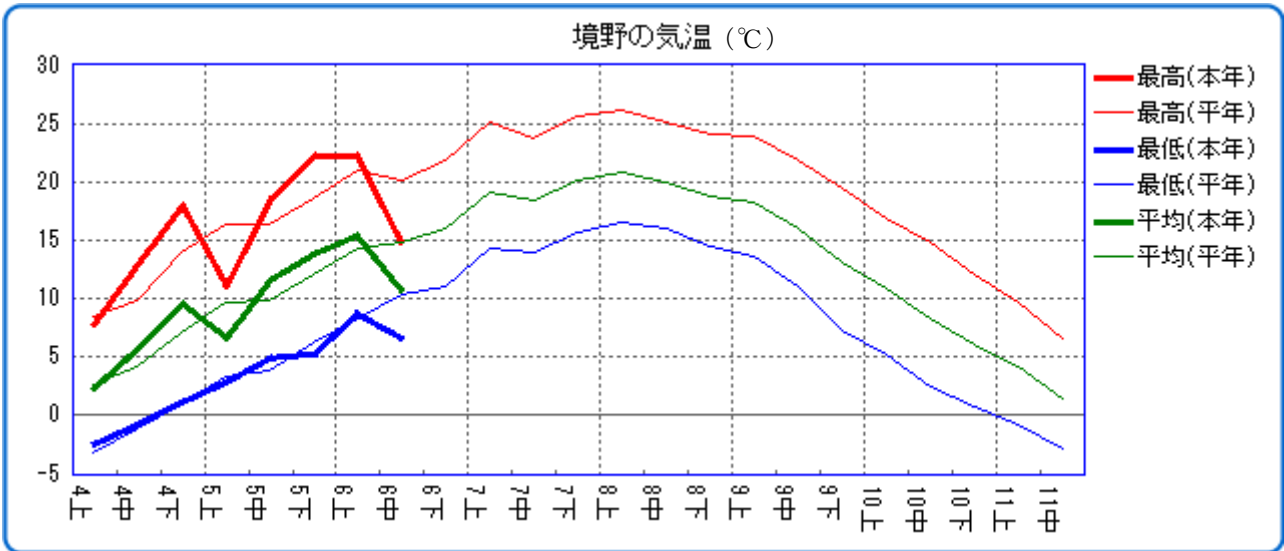
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
5月 下旬	13.8	12.1	1.7	22.2	18.6	3.6	5.2	6.3	-1.1
6月 月上旬	15.3	14.3	1.0	22.3	21.0	1.3	8.7	8.3	0.4
6月 中旬	10.7	14.8	-4.1	14.9	20.1	-5.2	6.7	10.3	-3.6

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
5月 下旬	11.5	16.5	-5.0	79.6	63.8	15.8
6月 月上旬	17.0	20.7	-3.7	66.1	60.6	5.5
6月 中旬	47.5	32.1	15.4	46.3	48.5	-2.2

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：平年並

事 由：5月下旬から6月上旬の平均気温は平年よりやや高かったため生育が進み、出穂期は平年より3日早い6月6日であった。6月中旬は平均気温が極めて低かったため、開花の進捗は緩慢であった。草丈は短く、茎数は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.6	6.9	△3
草丈(cm) (6月20日)	85.1	91.2	△6.1
茎数(本/m ²) (6月20日)	719	758	△39

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：平年並

事 由：5月下旬から6月上旬の平均気温は平年よりやや高かったため生育が進んだが、6月中旬の気温が極めて低かったことから生育は緩慢となった。草丈、茎数は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	68.9	69.4	△0.4	67.4	69.3	△1.9
茎数(本/m ²) (6月20日)	788	822	△34	783	813	△30

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：播種は平年と同じ5月16日に行った。出芽期は平年より2日遅い6月1日であった。出芽後は6月中旬の気温が平年より極めて低く推移したため、草丈は平年より低い、葉数は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.16	5.16	0
出芽期 (月.日)	6.1	5.30	2
草丈(cm) (6月20日)	21.9	29.6	△7.7
葉数(枚) (6月20日)	4.8	4.6	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大豆 作況：不良

事由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽はやや遅れたが、揃いは良好であった。出芽後の厳しい低温の影響で生育は停滞し、主茎長、本葉数とも平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0
出芽期 (月.日)	6.5	6.2	3
主茎長(cm) (6月20日)	10.0	12.1	△2.1
本葉数(枚) (6月20日)	0.2	1.1	△0.9

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

5) 小豆 作況：不良

事由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期は平年並であったが、出芽後の厳しい低温の影響で生育は停滞し、主茎長は平年を下回り、本葉の伸張もまだ認められていない。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0
出芽期 (月.日)	6.7	6.6	1	6.7	6.7	0
主茎長(cm) (6月20日)	2.7	4.3	△1.6	2.5	4.4	△1.9
本葉数(枚) (6月20日)	0.0	0.7	△0.7	0.0	0.6	△0.6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

6) 菜豆 作 況：不良

事 由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期は平年並であったが、出芽後の厳しい低温の影響で生育は停滞し、草丈、本葉数とも平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0
出芽期 (月.日)	6.5	6.4	1
草丈(cm) (6月20日)	9.1	11.5	△2.4
本葉数(枚) (6月20日)	0.1	1.1	△1.0

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：やや不良

事 由：植え付けは平年より3日早い5月9日に行った。萌芽期は平年並であった。6月中旬の低温により生育が緩慢となったため、6月20日時点の茎長は、両品種ともに平年より短かった。なお、茎数はほぼ平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期 (月.日)	5.9	5.12	△3	5.9	5.12	△3
萌芽期 (月.日)	6.2	6.2	0	6.3	6.3	0
茎長(cm) (6月20日)	14.1	20.7	△6.6	11.2	21.7	△10.5
茎数(本/株) (6月20日)	3.1	3.6	△0.5	3.0	3.0	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：6月中旬は気温が平年より極めて低かったが、5月下旬、6月上旬の気温が平年より高かったため、生育への影響はほとんどなく、各調査項目とも概ね平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	26.9	26.6	0.3	28.7	27.8	0.9	13.5	14.2	△ 0.7
生葉数(枚) (6月20日)	12.0	11.1	0.9	12.5	11.4	1.1	9.2	7.5	1.7
茎葉重(g/個体) (6月20日)	102	99	3	116	108	8	12	14	△ 2
根重(g/個体) (6月20日)	21	16	5	31	24	7	1	1	0

注1) 平年値は前7か年中、26年(最豊)、平成28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー) 作況: 平年並

事由: 5月下旬から6月上旬にかけての気温が平年より高く推移したため、1番草の出穂始は平年より5日早く、出穂期は4日早かった。その後、6月中旬は気温が平年より極めて低く推移し、6月14日収穫の1番草は、草丈が平年より8cm低かったが、乾物収量は590kg/10aで平年比97%であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
出穂始 (月.日)	6.8	6.13	△5	
出穂期 (月.日)	6.13	6.17	△4	
出穂程度 1番草	5.8	8.2	△2.5	
刈取日 (月.日)	6.14	6.20	△6	
倒伏程度 1番草	1.5	3.8	△2.3	
病害罹病程度 1番草	1.0	1.3	△0.3	
草丈(cm)	(6月5日)	86	69	17
	1番草	94	102	△8
生草収量 (kg/10a)	1番草	2638	2914	△276
乾物率 1番草	22.4	21.4	1.0	
乾物収量 (kg/10a)	1番草	590	608	△18
同上平年比 (%)	1番草	97	100	△3

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

出穂程度は、1:極少~9:極多。

倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

6月5日の草丈の平年値は、平成29年が欠測のため、前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く4か年の平均。

10) たまねぎ

作 況：やや不良

事 由：移植後の5月中下旬の降水量は平年より少なく、6月中旬の気温は極めて低く推移したため、生育はやや遅れ気味である。早生種「オホーツク 222」では、生葉数および葉鞘径は概ね平年並であるものの、草丈は平年をやや下回っている。中生種「北もみじ 2000」も、葉鞘径は平年並であるものの、草丈および生葉数は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	42.0	47.7	△5.7	33.6	36.4	△2.8
生葉数(枚) (6月20日)	6.6	6.8	△0.2	5.4	5.8	△0.4
葉鞘径(mm) (6月20日)	12.5	12.5	0	9.7	9.7	0

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。